

平成22年度 森プロ事業実績：恵南森プロ

(平成23年3月末現在)

	H19~21年度	H22年度				5力年	
	実績	計画	実績	達成率	備考	計画	
集約化(ha)	471	107	215	201%	H22年度で完了	686	
作業道(m)	1,203	2,500	460	18%	作業路含む	9,200	
間伐等	面積(ha)	232	55	23	42%	利用+切捨	269
	材積(m ³)	2,338	1,500	70	5%		7,140
備考	団地外実績(利用間伐:241ha、搬出材積:8,072m ³ 、作業道開設:721m)						

H22年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む) 14,388円/m³

施業集約化の状況

- ・生産森林組合等地元協力者から成る推進員を設置し集約化。

施業プランの活用状況

- ・社内的なプランナー研修にて、フォーマットを作成中。
H23より試行予定。

施業プランナー等の養成状況

- ・地域の総合的プランナー:1名
- ・中核的な森林技術者:1名(H21実績)
- ・施業プランナー:2名(H19,20実績・うち1名は第2森プロチームリーダーに従事)
- ・作業道オペレーター:1名(H20実績・山岡町久保原団地のチームリーダーに従事)

作業道の状況

- ・車両系作業システムの実施及び架線集材エリアを拡げるため作業道を開設。
- ・機械の規格、採算性、傾斜、土質、維持管理を考え、道幅は3.0~3.6m。
- ・路盤は採石を利用。開設時に発生する表土を法面に散布し緑化を促進。
- ・開設後の補修管理を考えると、開設費用は6,000~7,000円/m必要。
- ・研修と実践により開設・補修・管理方法を試行錯誤しつつ地域に合った開設方針を構築中。
- ・マサ土地帯での開設費及び維持管理費がかさみ、条件の悪い箇所は工事を行うことが出来ず、計画通りの施工が実施出来なかった。

作業道管理状況



開設済みの作業道に路盤材を入れ、マウンドを作り排水対策を実施。

H22開設作業道状況



縦断勾配に注意し、出来るだけ切り法面の低い作業道開設を実施。

作業システムの状況

- ・ 資源の循環利用を計画している区域は、場所により架線システムと作業道の開設と車両系作業システムを使い
- ・ 採算性の低い急傾斜地等は、架線・ヘリ集材により素材生産後、針広混交林(環境林)へ移行。
 - 車両系メインシステム: 伐倒: チェンソー→集材: グラップル・スイングヤード(0.45)→造材: プロセッサ(0.45)→小運搬: クローラダンプ
→積込・運搬: グラップル付トラック(6t)
 - 22年度メインシステム: 伐倒・枝払: チェンソー→集材: ラジキヤリー→玉伐: チェンソー→集積: グラップル
→積込・運搬: グラップル付トラック(6t)
 - ヘリコプター集材システム: 伐倒・枝払: チェンソー→集材: ヘリコプター→造材: プロセッサ→積込・運搬: グラップル付トラック(6t)
- ・ 平成22年度第1森プロチーム木材生産実績
 - 森プロ団地内70m³(作業路支障木伐採分) / ○森プロ団地外(組合全体: 8,072m³)

作業路を活用した森林整備



その他

作業路説明会の開催



中核的な森林技術者とプランナーが森林所有者に対して作業路について説明(H22.6.)。

森林研究所への協力(試験地提供)



森林研究所が面浸食防止のための多機能フィルター試験を実施しているので、組合は事業地提供で協力している。

森プロの成果

- ・ 地域の状況にあった作業道開設手法が確立しつつある。(地質、地形等を考慮し作業道が適当である場合のみ開設する。)
- ・ 森プロのノウハウを活かし、地域プランを全域展開(第2森プロ、久保原団地他)。
- ・ 組合内で経営戦略会議を開催し、組合の方向付け等を検討している。

今後の課題

- ・ 地形条件等による作業システム選択基準の確立。
- ・ マサ土地域における作業道の開設について組合内で検討中(開設した作業道の補修を組合が実施しており、経営を圧迫している。今後作業道の維持管理費を森林所有者等で負担する体制を作る必要がある)。
- ・ 建設業者等との連携を深め、施工技術及び施工管理能力を身に付ける必要がある。